

研究所とのNet Work

所報

Aichi Labor Institute

も：く：じ

・ここにこんな人がいた・発見

平和運動の若い語り部

…櫻井 善行 p2～

・震災ボランティアに参加して

…石原 愛子 p4～

・救援・復興へ奮闘する自治体労働者

…編集部 p7～

・震災・原発被災地を訪ねて その1

…櫻井 善行 p8～

・浜岡原発の永久停止・廃炉を求める静岡県大集会…編集部

p10～

・利益の拡大に向けてばく進

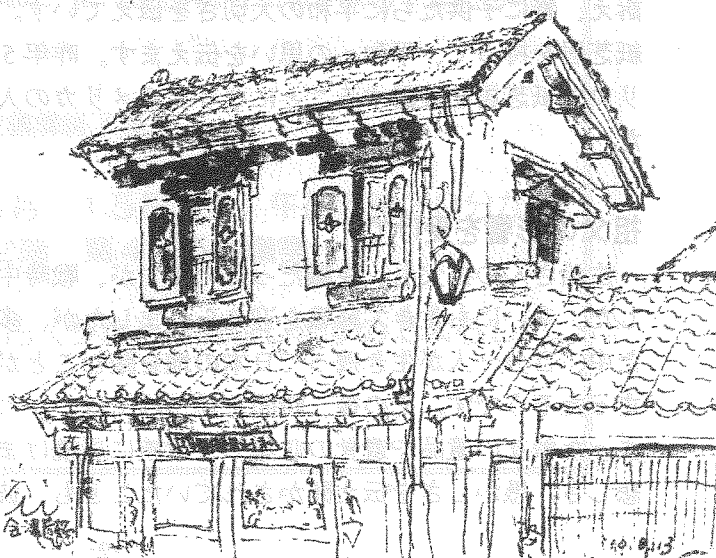
——国内生産の海外移転も視野に・トヨタ…伊藤 欽次 p13～

・資料：内閣が発表する「月例経済報告」

…編集部 p22～

・お知らせ 第13期総会について

…平井 孝 p23～



● 第159号特別号

○ 2011年7月20日

愛知労働問題研究所

ここにこんな人がいた 発見！平和運動の若い語り部

櫻井 善行

思わぬことから

7月16日の午後、この日は午前中に愛知労働問題研究所の所員会議があった日です。午後に同じ労働会館本館で愛高教女性部が学習会を行うことはすでに知っていました。男性の方も大歓迎なんていわれてはいたけれども、チラシはもらわずただ場所と時間帯だけはわかっており、ちょうど自分の体がすぐ近くにいたこともあって、軽い気持ちで会場に身を寄せたのが大きな間違いでした。女性部の面々数十人の中に白一点(実は愛高教三好書記次長も挨拶のため来ていて白2点でしたが)というのは目立つ存在だったのですが、それでも違和感なく時間は過ぎていきました。

紙芝居を通して

本題の講師の佐治麻希(佐治妙心法尼)さんは静岡県伊豆市在住の実家が日蓮宗系のお寺の一人娘です。お年はまだ23歳だったとか。すでに修行を積み、僧侶の資格を会得し、現在は頭を丸めて尼僧の姿で登場しました。麻希さんは、小学6年生の頃から11年に渡って続けてきたことがあります。それは、紙芝居の読み語りです。広島原爆の犠牲になり、12歳で亡くなった少女「佐々木禎子」さんのお話しエピソードは私たちもよく知っていることです。これを題材に、麻希さんは小学6年生の時に紙芝居を作りました。当時お寺での読み語りから始まった彼女の紙芝居の活動は、北は北海道から南は沖縄まで全国各地で広がることになり、現在では300回近くになるというそうです。

彼女はこの間、様々な平和を願う集会にも顔を出し、平和の尊さと核兵器の廃絶を訴え、特に子供たちに平和の大切さを伝えていす。現在でも依頼があればどこへでも紙芝居を持って、平和への思いを伝えます。昨年5月には、原爆を投下した国、アメリカで紙芝居を披露することになり、アメリカの人たちに、紙芝居で思いを訴えました。

祖父の影響を受けて

佐治さんの祖父も、住職だったのですが、戦時中、軍に徴集され南方戦線に行きました。幸いにも生きて終戦を迎えられましたが、多くの仲間たちが命を失ってしまった中、自分一人が生き残って日本の地を踏むことができたことに、罪悪感を持ってしまったそうです。その後、時間を見つけては、かつての戦地を訪ね、命を落としてしまった戦友の遺品や遺骨の収集し、遺族に届続けました。祖父から、戦争の悲惨さ、悲しさ、愚かしさを伝え聞かされていたことも、彼女の現在まで続く活動の原動力に

もなったことでしょう。佐治さんの言葉で、一番印象的だったのは、「戦争を止めるには、ねたみや怒り、憎しみといった人間の心の中の戦争をなくさなければならない」ととても重い言葉です。

彼女は、昨年5月、念願だった渡米を果たし、ニューヨークで紙芝居を披露した訳です。グランドゼロや老人ホームを訪ね、核兵器の恐ろしさや愚かしさを現地で披露するとともに、老人ホームでは、老人たちに折り鶴の折り方を教えたりし、数多くの交流をしました。

これから平和の尊さを訴えて

彼女は幼少の頃は引っ込み思案で、しばしばいじめにあったこともあったそうです。そんな彼女が彼女を取り巻く環境も左右したとは思いますが、立派に人を思いやる立場に成長したことと、戦争を知らない世代が、戦争の悲惨さを核兵器の恐ろしさを訴えられることへの共感でした。彼女からすれば当然なことかもしれませんが、20歳過ぎの若い女性が、髪を切って、仏道の道を歩むということは、俗世界の刺激に染まったものにとって理解は困難だという主張もあるかもしれません。しかし、ここに未来を語る若者がいたということを発見したことは自分にとっては大きな成果でした。

土曜日の午後、ふとした冷やかしから参加した学習会で、自分が事前に予測した範囲を遙かに超えた形で自分に与えてくれたものは大きかったです。それよりも紙芝居を通じた貴重なお話を聞くことができたのが、わずか数十名だったということが他方では残念だった。事前にわかっていたら、教え子に声かけをすることもできなのにと考えたが、これは後の祭りでした。

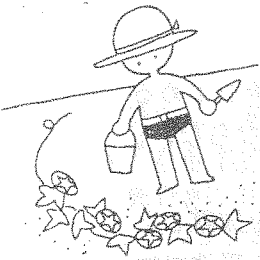
皆さんには、長崎の「嘉代子桜」のお話もぜひ聞いてほしいです。広島佐々木禎子さんのエピソードとともに、長崎の林嘉代子さんのお話も後生の人たちに伝えていただきたいお話です。私はたまたま土曜日の午後、偶然にも快い体験し、その余韻に浸りながら帰路につくことができました。感謝！

佐治さんのお寺は日蓮宗妙蔵寺

住所 静岡県伊豆市八木沢1738 電話
番号 0558-99-0103



(さくらい・よしゆき／当所副所長)



震災ボランティアに参加して

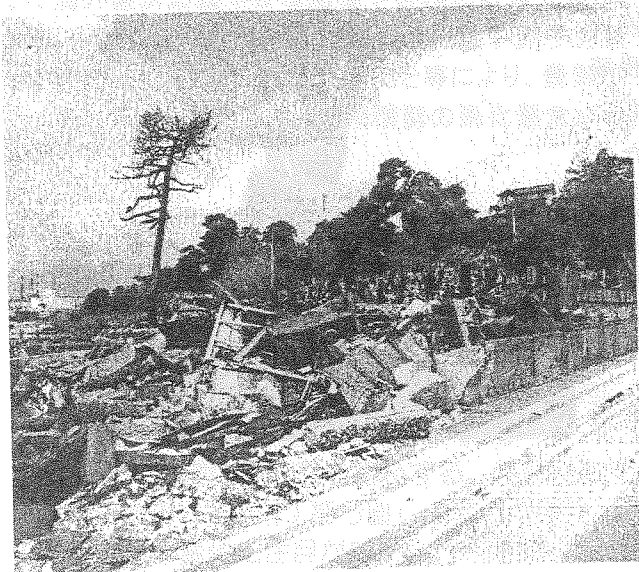
石原 愛子

6月12日から17日まで、愛労連が募集した震災ボランティアに参加し宮城県石巻市に行ってきました。愛労連から龍尾さん、愛自交から井戸さん、きずなの大竹さん、全国一般から五十嵐さんと私の5人です。私たちは災対連・石巻共同支援センターで活動してきました。このセンターは阿部さんという方が経営している「焼き鳥とんこ」を使わせてもらっています。お店も被災したことと、仕入れ先も被災して、営業ができないから使ってもらっていいよと、阿部さんが善意で貸して下さっていて、なおかつ食事も作っていただき、寝泊まりの手当もしていただいています。

海岸から4kmはなれたこのセンターは津波では無く、地盤沈下で床上浸水となったそうです。この近くの道路なども陥没して、水はけが悪くなっていました。そのせいで下水がうまく流れていないようで、時々悪臭がしていました。

活動の第1日目、センターの責任者の小玉さんの案内で、石巻市内の被災の状況を見学しました。石巻市は震源地に近く、地形としても海岸の平野が広がったこともあり、津波の被害が1番大きかったところです。3000人を越す死者、今なお2800人近い行方不明者、全壊家屋は28000軒と言うことです。市民の憩いの日和山公園に行き、海側を見渡すと、ああ、これはテレビの映像で、見た景色だと思いました。

眼下にブルドーザーで踏みつぶされたような町が広がっています。芭蕉も訪れたという標高約57mのこの小さな山のおかげで、避難した人々の命は助かったのです。



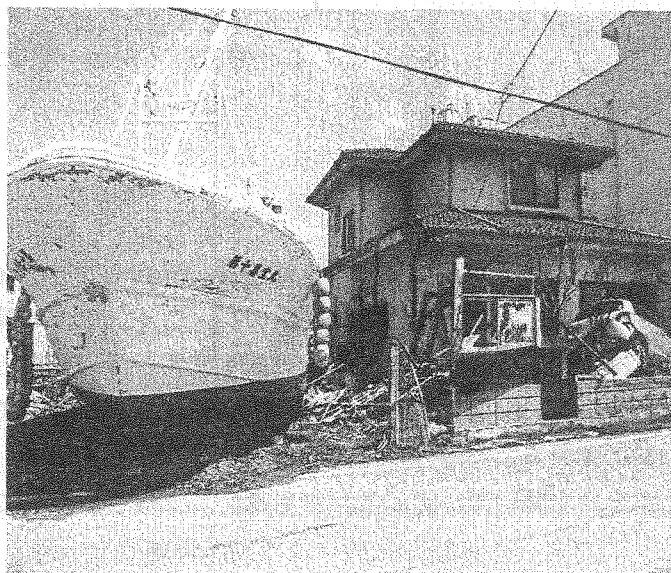
しかしその下に広がる南浜町は一瞬にして、壊滅的な状況となり、さらに火災にも見舞われ、まるで、見たわけではないけれど戦後の焼け跡のような様子です。道はできているけれど、住人は見当たりません。小学校も焼けてしまい、空襲にあったようです。ところどころに自衛隊のトラックや隊員がいました。活気のある魚市場のあった、魚町も壊滅状態。そこら一体の建物はあっても、中はまだぐちゃ

ぐちゃ、店なども営業するには時間がかなりかかりそうでした。

さて、いよいよ作業開始、センターそばの公園の側溝のヘドロかきです。まずはふたを取るから。これは男子にまかせて、土嚢袋にヘドロを入れるのです。はじめはおっかなびっくりで側溝に入るのをためらっていましたが、ええい！と気合いを入れて、足を入れると何だか妙な感触。生まれて初めての仕事でした。そばを通るご近所の方が「ご苦労様です。」とか「遠いところから来ていただいてありがとうございます。」と声をかけてくださいました。

2日目は被災したお宅から畳を運ぶ仕事でした。3ヶ月たっているのに、まだ水分を含んだ畳の重かったこと。でも3ヶ月もこんな畳をおいたまま、ガマンされていたんだと思うと、重いことなど、たいしたことではありません。次に中央というところのお宅の床下のヘドロかきです。2階建ての家の1階部分が津波でさらわれて、被災した後、靴が一足もなくて、外に出ることもできなかったそうです。床板をめくると、すみずみまでヘドロがくまなく入り込んでいます。天上の板をはがすと、今度は中から大きな魚があらわれて、ちょっと、笑ってしまいました。

共産党のボランティアの方たちとも一緒に作業をして、見る間に家の前の空き地に土嚢袋と廃材の山ができあがりました。その近辺を歩いて見ると、どの家も1階部分はひどい状況で、壊れた車があちこちにあり、家の横に女川町の船が鎮座し、玄関と庭に車がささ



ったまま、という家も残っています。家の方はいったいどうなってしまったのでしょうか？

3日目は一人暮らしのおばあちゃんの家の畑のヘドロはがしです。私はおばあちゃんから「隣家の亡くなったおばあちゃんの声がするので、となりの空き地のガレキなどを片付けて欲しい」と頼まれました。隣の方は「津波だから逃げろ！」と言ったのに、逃げ遅れてしまったそうなのです。300mほど離れた工場の壁らしいガレキやら温室の支柱やら、大きな鉄板やら、いろんなものがごっちゃにあるのでした。

帰るときにはずいぶん片付いたので、「もうばあちゃんの声はしないはず！」と声をかけるととても喜んでくださいました。津波が来なければ、好きな日本舞踊を楽しんで、名取りにもなって発表会もやっていたとおっしゃるおばあちゃん。もう踊る気力もないとはじめは言っていたのに、「やっぱり、また踊ってみようかな」とちょっと元気になってくれたので、来たかいがあったと思いました。

最後の日もまた、側溝のへドロかきでした。またまたそばを通る方から、声をかけていただき、だんだん「ボランティア・ハイ？」のようになって、まだまだ働けるぞ！と気力だけは高まっていましたが、身体は限界でした。

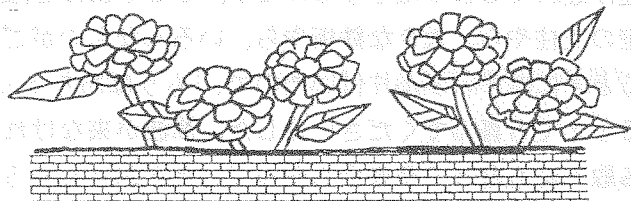
初めてのボランティア体験でしたが、阿部さんやセンターの皆さんのおかげでとても楽しく快適に過ごさせていただきました。結構私って力持ちなのね！？なんて、自信もつきました。自衛隊風呂というのにも入ったし……。しかし、まだまだ復興まではとても遠い道のりです。私たちが手がけた仕事は被害の何百万分の1いや何億分の1をなぞった程度なのではないかと思います。行けるものならまた行ってお手伝いをしたいです。そして、行けないならば復興の為と行って被災者を苦しめるような消費税の導入や、漁業を壊す、「水産特区」導入などの現政権のやり口を許さないという支援をしていきたいという気持ちを強くしました。

(いしはら・あいこ／愛労連・全国一般女性ユニオン分会)

再度訪れました

この7月16日～20日まで再度、石巻ボランティアに行ってきました。前回にくらべると、デコボコの道路が直っていたり、先月の報告に書いた、船が横付けされた家は、いまだに船が残ってはいましたが、家の玄関と庭にあった車は撤去されていました。有名な蒲鉾屋さんは復興前に近いほど出荷しているようでした。しかし、まだまだ復興までの道のりは遠いと感じるばかりでした。本当に大切なのは現地の方の要望を良く聞いて、タイミングも考えて支援し続けることだと思います。

石原 愛子



救援・復興へ奮闘する自治体労働者

編集部

機関紙「あいちの仲間」4月25日号(1025号)は、次のように報じています。

「東日本大震災から1ヶ月を過ぎ、現地では被災者支援と生活再建、復興に向けたとりくみが本格化しています。全労連・自治労連でボランティア派遣が開始され全国の仲間が活動しています。また、各自治体では地震発生時から行政派遣をおこない、住民のいのちとくらしを支える自治体労働者として奮闘しています。」

「4月7～15日岩手県大船渡市に全労連の災害支援として入った、愛知県本部執行委員の平野正一さんに現地の様子を聞きました。大船渡市の職員は『若い職員のほとんどは消防団に入っており、地震発生後、津波警報が出される前に防潮堤にある扉を開める作業に向かいました。扉を閉めたにもかかわらず、10メートルの防潮堤を津波は簡単に乗り越え、職員を、町を、建物を、人を、すべて破壊し、飲み込み海に引き込みました』と津波の恐ろしさを話してくれました。震災発生以来、自らも被災した自治体労働者は、昼夜分かたず昼は仕事、夜は被災者救援、夜の見回り、土日は復興作業と休みもとらず仕事をしています。大船渡市の三陸支所職員の佐藤さんは『父親が行方不明です。でも地域、住民のことを考えればそれどころではない』と話し、『三陸は漁業で成り立っている。漁師の生活を保障しなければ三陸は産業も地域もなくなってしまう。それを行政が真剣に考えなければ』という言葉に力がこもります。

「名水労中央執行委員の谷口さんは、谷口慎司さんは3月23日～30日名古屋市下水道局からの業務派遣で、下水一次調査隊として岩手県久慈市へ災害派遣されました。中略・谷口さんは『毎日市内を歩き回るため、本当に厳しい現実を目のあたりにしました。でもそんな悲惨な光景とは反比例して、被災された方々のがんばっている姿、老若男女関係なく助け合っている姿に、いま、自分にできる精一杯のことを頑張ろうと、本当に強く感じた』と参加した思いを語ってくれました。

機関紙「名水労」4月10日号(1426号)は、上下水道局から180名超を派遣と報じています。「津波の凄まじさを実感」と見出しは躍ります。「東日本大震災における下水道施設の被害と影響を調査するため上下水道局は下水道調査隊と調整隊を派遣しています。3名に現地での活動を伺いました」村瀬係長は「3月22日から4月1日まで調整隊として岩手県に派遣されました。災害派遣は初めての経験です。中略・現地では地震より津波の影響が大きく、下水道管路の被害はほとんどありませんでした。久慈市の下水管総延長は9.5キロでしたが名古屋市は7600キロです。もし名古屋で震災が発生するとかかなり大変だと思いました。また、往路に福島県を通りましたが、やはり原発の近くでは、見えない放射能のこわさを感じました。今回の震災は悲惨な出来事ですが、この経験を名古屋で生かしていきたいと思います。」



震災・原発被災地を訪ねて その1

櫻井 善行

はじめに

たまたま偶然なことから7月8日から10日までの3日間、先の東日本大震災における震災復興のボランティアの一環として、福島県南相馬市における放射能汚染マップ作成のための市民団体の測定作業ボランティアに参加することができました。今回の3・11大震災はすでに4ヶ月が経過しているものの、東日本を中心とした広範囲な地域に多くの被害をもたらし、すでに復興作業が行われているものの、なおかつ各地に大きな爪痕を残し、復興のテンポも地域間で大きな格差が見られました。

それは被害の規模だけでなく、今回の震災が複合的な要因を持ったものであり、被害の種類においても復興のテンポは大きく異なる。被害が集中した東北3県の中でも、震災の表向きの被害は岩手・宮城両県に比べて小さく見えるものの、未だに解決するめどが立たない原発被災によって、福島県の場合はより深刻です。私たちが南相馬市に滞在していたときに、ちょうど南相馬市から出荷した肉牛がセシウムを含んでいたということで地元でも大騒ぎになろうとしていました。その後の騒動は皆さんのしるところです。

私は何よりも被災状況の実態を自分の目で見ながら、現地の人々の生の声を聞きたいという思いと、私にできることは何があるのかということ問いかけるためにもという思いが、私を今回のボランティアに駆り立てた要因である。もちろん運動に関わるものにとって、災害復興という課題は個人の自助努力だけですますものではないし、個人の善意のボランティアだけに依存して、担うべき国家の役割が後景に追いやられることがあってはならないのはいうまでもありません。また共生・連帯・絆という私たちの中に失われていたものを再生させるためにもいい機会だと考えたからです。

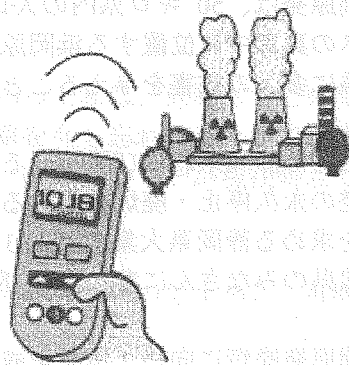
7月8日の地下鉄本郷駅前に7時30分集合という時間は、三河に住むものにとって地獄のタイムスケジュールでした。何人かの参加者はわざわざ前日から宿を名古屋市内にとった人もいました。私もまた前泊こそはしませんでした。始発に載りました。

私は今まで車での遠方への外出はできるだけ控えていたため、東北まで車で行くという発想はなく少々不安でしたが、それでもほぼ予定通りの時間で目的地に到着することができました。蛇足ながら東海地方から東北地方に車で行くには、首都圏の東京都・神奈川県を外して移動するのは鉄則であるということもわかりました。利用した高速道路は東名高速、中央高速、上信越道、関東道、東北道、磐越道をはしごで移動し福島に入ることができました。我が国の高速道路網の「整備」された姿にを再認識することができました。途中車中において、放射能測定に慣れるために、いわゆる「ガイガー計測器」を使わせていただいたが、栃木県ぐらになると表示値が一桁あがり、

福島県にはいと高いレベルの汚染度が恒常的になっていました。磐越道を降り、車が川俣町にさしかかり信号で車が停車した時、左手にたまたま小学校があり子供たちの下校時間となっており、スクールバスに乗る児童たちとそれを見送る先生たちの姿に遭遇しました。そのとき子どもたちが一人残らずマスクをしている光景は異様であり、ここでは車中におてもガイガー計測器は鳴りっぱなしであり汚染が深刻であるということを伺わせた。た。

しばらくすると車は「までの村」として名が知れた「飯舘村」に入りました。日本一美しい村として内外から評価されていたこの村の光景には唖然としました。それは村の入り口、出口にはパトカーが何台か停車し、通過する車を監視し、美しかった田畑は、雑草が伸び放題で手入れがされていないのがありありでした。全村避難地域であり、村のお店や学校は閉ざされており、まだ明るいのに人影はほとんど見ることができませんでした。無人の村役場前の計測器は、毎時3マイクロシーベルトを超えていました。「ゴーストタウン」とはこういうものをいうのだろうと自分としては納得しましたが、まさか私が生きているときにこうした光景を目撃するとは夢にも思いませんでした。この村と南相馬市との境界には、長い下り坂の峠があります。実は後から地元の人から聞いた話ですが、震災翌日の3月12日の福島原発の爆発の時、南相馬の人たち（双葉や大熊もそうだったらしいが）は避難のためにこの飯舘村なら安全だと着の身着のままで車で脱出をはかったそうです。しかし先頭の車がガス欠でストップして、この峠を先頭に大渋滞をもたらし、多くの人は恐怖の夜を明かしたそうです。しかもしばらくの間は、この村が20キロ圏の外側であるということで、多くの人が避難して沢の水を飲んでいたということです。（驚）この村の汚染度が深刻であることを多くの人知ったのは、しばらくしてからのことでした。当時人々は何も真実を知らされていないなかつたのです。

この日はまず南相馬の市役所に出向き、その後測定地域になる南相馬市の鹿島地区の社会福祉協議会に出向き、関係者からのお話を伺いました。南相馬市は数年前、原町市と小高町、鹿島町の合併によって2006年に成立した市です。後から成立した南相馬市が相馬市の亜流というのは歴史を知らないよそ者の発想であり、たとえば相馬野馬追はこの町での伝統的な行事です。会場にあたる公園を通過した時に馬の銅像がまるっぽ破壊されている光景もまた今回の地震のすさまじさを示しており、復旧がままならないことを私たちに教えてくれました。海岸から2キロぐらい入った田畑に乗り上げられた漁船を何度となく見ることができました。これも今回の地震を示すものでしょう。（続く）



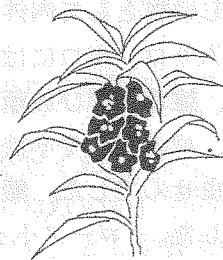
（さくらい・よしゆき／当所副所長）

浜岡原発の永久停止・廃炉を求める 静岡県大集会

(愛称「7.23 ひまわり集会」)

<参加に向けた共同アピール>

静岡県評議長	林 克
愛労連議長	樽松佐一
神奈川県労連議長	水谷正人
長野県労連議長	高村 裕
みえ労連議長	唐沢克昭
山梨県労議長	横内雅光



東日本大震災による東京電力福島第一原発事故は、あらためて原発の危険性を国民のみなさんが衝撃的に受け止め、原発問題、エネルギー問題について真剣に考えることになりました。

私たちは、大震災以前から東海地震の震源域に建つ浜岡原発に危険と不安を感じてきましたが、福島原発の事故はその不安を現実のものとししました。

こうしたなか、菅首相は、予想される東海地震の震源域の真上に建つ浜岡原発の運転停止を中部電力に要請し、中電が受け入れて稼働中の4・5号機は運転を停止しました。しかし、この措置は津波対策などの「安全対策」を講じることで運転が再開されることを条件にしています。多くの県民のみなさんは、運転停止を歓迎すると同時に、再び稼働されないことをつよく願っており、この声は日ごとに広がっています。そして、静岡県境をこえて神奈川や愛知、三重県など隣接県に広がっています。

浜岡原発は、50 キロ県内の人口は 214 万人と全国一を示しており、東海道メガロポリスの真ん中に位置する浜岡原発でもしも事故が起これば、首都圏をはじめとして隣接県に多大の被害を与えることは明かです。

私たちは静岡県および隣接する県の労働組合として、県内外に広がりつつある「浜岡原発の永久停止・廃炉を求める」声を、その一点でつなぐ「浜岡原発の永久停止・廃炉を求める静岡県大集会（7.23 ひまわり集会）」の開催成功を願い、静岡県をはじめ隣接県のみなさんに参加を呼びかけるものです。

浜岡原発廃炉に向けた集会を成功させて、住民・労働者の安全・安心を勝ち取りましょう。

日時 2011年 7月23日(土) 午前11時～

場所 静岡市 「駿府公園」

静岡県静岡市葵区、JR 静岡駅より徒歩 10 分

10 時 30 分～ アトラクション

11 時～ 12 時 本集会

12 時～ 3 コースに分かれパレード、午後 1 時までには終了予定

「浜岡原発の永久停止・廃炉を求める静岡県大集会」よびかけ人

阿部浩基(弁護士)

伊藤通玄(静岡大学名誉教授・地球科学)

小野ゆう子(県宗教者平和懇談会)

間間 元(県保険医協会理事長)

林 克(静岡県労働組合評議会議長)

林 弘文(静岡大学名誉教授・物理学)

* 集会参加に際してお願い

○猛暑が予想されます。必ず帽子・水筒を持参してください。

○団体旗は最低限にし、自分の主張を書いたプラカードなどを持ってきてください。

▼賛同人(敬称略、2011年7月13日現在175名)からのメッセージの一部

湯川れい子(音楽評論・作詞) どのような津波対策をしようと、直下型の地震で起きる事故が予測できない以上、このような危険なものを一兆円も使って温存してほしくありません。どうぞ一日も早く廃炉にしてください。

山田洋次(映画監督) イタリアの民衆に学びたいと思う。

根岸季衣(俳優) もうこれ以上痛みも不安もかかえないように呼びかけに賛成します。

加藤剛(俳優) 御前崎生まれ、海岸育ちの少年であった私は、帰省してこの美しい海岸を分断する原発道路・原発の遠景を見た時の衝撃を今も忘れることができません。——人間って高慢なものだな、という実感でした。核エネルギーが現時点で人間の手に余るものであることだけは確かですね。

三上元(湖西市長) 神戸型の直下地震には全く耐えられないのですから、再開などともありません

暉峻淑子（埼玉大学名誉教授） 福島犠牲を経なければ廃止できないなんて、あまりにも不当で悲しいです。原発被害は世界にひろがります。世界に対してどうやって保障できるのでしょうか。自然に対してどうやって謝罪できるのでしょうか。

羽田澄子（映画監督） 原発は人間の管理能力を越えたものです。浜岡原発が危険なことは明らかです。趣旨に賛同いたします

小中陽太郎（日本ペンクラブ専務理事・名古屋経済短大客員教授・星槎大学教授） 浜岡原発廃炉を研究者、労働者、そして市民の力で実現しましょう。毎週、名古屋へ出張のたびに、もう帰れないかと覚悟。

早乙女勝元（作家） 被爆国日本が、ふたたび「ヒバクシャ」を出すことに、怒りを覚えます。未来世代に安心して安全で、人間らしく生きられる明日のために、ひとふんばりの時です。

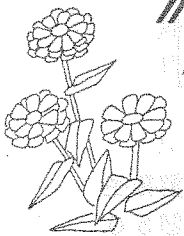
有田芳生（参議院議員・民主） 国会でもあれこれと理由をつけて浜岡原発の停止に反対する議員がいます。事故が起きても想像力が不足する議員は、厳しく資格を問われます。

小森香子（詩人・詩人会議常任運営委員） 「青い空は 青いままで 子どもらにつたえたい」と核兵器廃絶の歌を書き、平和運動をつづけて来た私は、55年体制のもと「核の平和利用」をかかげて国民をだまし、アメリカ資本と結んで原発を導入しつづけた日本政府と電力資本、及びその宣伝の先頭に立ったマスコミを許すことはできません。子や孫に青い空と海、生命すこやかな日本列島を残すために、今こそ真実を語り、原発に頼らない、太陽や風力発電を、と声を上げましょう。

立石雅昭（新潟大学名誉教授） 東海地震震源域の直上に立地する浜岡原発の即時全面廃炉を求めます。原発は廃炉にしても長期間の安全管理が必要です。徹底した安全対策を直ちに行うとともに、予測できない事態にも対応できる管理体制の構築を求めます。7. 23ひまわり集会の成功させましょう。

富山和子（立正大学名誉教授・環境社会学） 被爆国で地震国の日本が、この期に及んでまだ目が覚めぬとは、何とも悲しく恥ずかしく恐ろしい。浜岡の廃炉こそ日本の脱原発への第一歩。（県民のいのちが大切だと思うなら）知事よ、真っ先に立ち上げられ。

滝沢俊治（群馬大学名誉教授） 福島原発事故は世界に強い衝撃を与え、例えばイタリア国民は国民投票による圧倒的な支持で原発ゼロの道を選択しました。今こそ私たちは目ざめなければなりません。



“利益の拡大”にむけてばく進 ——国内生産の海外移転も視野に・トヨタ

伊 藤 欽 次

1. 東日本大震災・東電福島第一原発重大事故から4か月

大震災から4カ月たった7月11日現在でも、なお5,344人の行方不明者がいます。死者は15,550人。被災地のがれき撤去は、ボランティアの協力、自衛隊員・警察官の投入によって除去がすすんでいるものの、まだ7割が手つかずの状況といわれています。

未だ、10万人の人のびとが避難生活を余儀なくさせられています。4か月たっても、被災地住民の復旧・復興のメドはまったくたたない状況がいまもなお続いています。

さらに、東電福島第一原発重大事故は、いまなお収束のメドさえたっていません。被害は拡大する一途で、避難区域は拡大し、ふるさとから「強制」的に移住させられ避難生活を余儀なくさせられています。生活・生業が成り立たず、途方に暮れている姿がテレビの画面を通じて知らされています。

被災地の岩手・宮城・福島では雇用・営業破壊はかつてなく深刻な事態となっています。

民主党政権は、『復興への提言——悲惨の中の希望』(6.25)をまとめたものの、被災者にはなっとくのいく明確な「復旧・復興」の青写真はしめされていません。

そのうえ、原発大事故収束の見通しはまったくたっていません。日増しに高まる「原発ノー」の声を無視して、政府は原発の「安全宣言」をするなど、原発の再稼働に執心する一方、収束の見通しがたたない、国民の「原発ノー」の声のつよまるなかで、菅首相は7月13日突然、「脱原発依存」の記者会見をする(のちに、個人的見解、と修正)など、右往左往しています。

2. トヨタの自動車生産——大幅減産

3. 11以降の長期にわたる生産停止、そして生産再開後も生産量は半分以下という状況がしばらくつづいた。トヨタの1月から5月までの生産などは以下のものであった。海外への部品供給がストップするなど、海外生産も大きく落ちこんだ。大幅な減少は推移をみれば一目瞭然である。

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月
国内生産	234,045 (87.0)	283,556 (91.5)	129,491 (37.3)	53,823 (21.6)	107,437 (45.6)
国内販売	87,399 (72.2)	118,546 (79.2)	115,196 (55.0)	37,332 (32.0)	50,597 (44.3)
輸 出	126,143 (96.3)	162,347 (108.1)	107,751 (66.6)	31,025 (20.7)	42,313 (36.7)

海外生産	379,786 (101.3)	351,456 (101.8)	412,974 (96.9)	254,732 (74.5)	180,374 (54.2)
グローバル生産	613,831 (95.3)	635,012 (96.9)	542,465 (70.1)	308,555 (52.2)	287,811 (50.7)

() は前年同月比

3月以降の国内生産、販売、輸出が大きく落ち込んだのは、3月11日の震災発生後の部品供給の停止（車両生産に必要な部品のうち、電子、ゴム、樹脂関連など500品目程度の調達に支障が出ていたという）で操業停止を余儀なくさせられていたことが原因であった。

3月28日（月）から、堤工場とトヨタ自動車九州で操業開始したものの、他は操業停止がつづいた。震災から1か月以上たった、4月18日から車両生産を休止していたすべての工場で生産再開にこぎつけたが、生産の完全正常化にはほど遠い状況であった。

トヨタは7月5日にいって、生産の完全正常化が遅くとも10月に前倒しになることを明らかにした。これまでは「11月ごろ」としていたが、東日本大震災の影響で不安定になっていた部品の調達が、予想よりも早く復旧したためだ、という。

3、2012年3月期決算見込み

今期の決算見込みは、いつも前期決算の発表と同時にこなわれてきたが、今期の決算見込みは1か月遅れで発表した。

(単位：億円)

	'12年3月期見通し	'11年3月期実績	増 減
売 上 高	186,000	189,936	△ 3,936
営 業 利 益	3,000	4,682	△ 1,682
税金等調整前 当期純利益	3,200	5,632	△ 2,432
・当期純利益	2,800	4,081	△ 1,281

為 替 レートの	ドル	82円	86円	4円の円高
	ユーロ	115円	113円	2円の円安

これによると、今期の利益は、前期をしたまわる予想である。

4、土日出勤、木金休み

東日本大震災・原発重大事故によって電力供給がきびしくなっていることから、自動車工業会は「業界を挙げ夏季(7月～9月)の全国規模での土曜日・日曜日から木曜日・金曜日への休日変更」が決定しました。これにしたがってトヨタも、5月23日、「会社休日の変更について」をあきらかにしました。

「当社といたしましても……、夏場にかけての電力需給が、全国的に一層逼迫するとの観点から、自動車工業会が決定した方針に全社を挙げて協力することといたしました。

具体的には、7月1日(金)から9月30日(金)の期間、工場、オフィス(豊田、名古屋、東京など)を含め、全社的に木曜日・金曜日へ休日をシフトすることに決定いたしました。」と、

すばやい対応、企業城下町・トヨタ市

豊田市は、「平成23年7月～9月の休日保育利用のご案内」をHPですばやく公表した。その内容はつぎのとおりでした。

＊ 利用対象児童——市内のこども園に通園している児童を原則とし、健康で集団保育が可能な児童であって、保護者及び同居親族のいずれもが、仕事などで休日に当該児童を保育することができないと認められる場合に限ります。

＊ 実施日 7月～9月の日曜日・祝日(注意:10月以降は、通常の休日保育となります。8/14(日曜日)、9/23(金曜日・祝日)は5園(飯野、みずほ、わかば、いばばら、丸山こども園)のみの実施となります。

＊ 利用料 生活保護世帯は利用料を免除

＊ 給食はありませんので、弁当を持参してください。

＊ 公立こども園では、他の園の園長・主任・保育師が交代で休日保育を実施します。平日担任している保育師による保育ではありませんので、ご了承ください。

＊ お子さんの健康と親子のふれあいを考慮し、木・金曜日は家庭での保育にご協力ください。

こうした日曜・祝日保育は、西三河の各市とと大府、半田などの各市にもひろがった。さらに、名古屋市でも「中部電力浜岡原発の停止に伴う夏場の節電対策で、トヨタ自動車をはじめとする愛知県内の自動車関連企業が土日操業を決めたのを受け、名古屋市は13日、これらの関連企業社員らの子どもを対象とした休日保育を拡大する」と発表した。(名古屋市では、土曜保育は通年で実施されている。)

そもそも連続2交代制(1週間交代で、1直は6時25分～15時15分、2直は16時10分～1時)の勤務そのものが世間と家族からズレまさに、ている。そこにもう1つ、土日出勤が加わった。異常が拡大されただけでなく、子どももふくめて、家族の社会生活はふつうの市民とちがう生活を余儀なくさせられている。

4、2011年6月 株主総会

2011年3月期決算をうけての株主総会は、6月17日、トヨタ本社でひらかれた。総会では、「東日本大震災による生産、販売への影響などが説明され、被災した関連部品メーカーの生産拠点が659拠点に及んだ。、阪神大震災の13拠点、中越沖地震の8拠点と比べて、被災規模が圧倒的に大きかった」ことを明らかにした。

しかも、部品供給網の復旧には「部品供給のめど付けに2カ月以上かかり、影響が全世界に及んだ」と。影響が長期化した理由として、▽被災した部品メーカーが多く、広範囲にわたった、▽大半の車種に使う半導体部品や樹脂素材の生産拠点が被災、▽福島第1原発事故のため一部の部品で生産移管が必要になった、との3点を挙げていた、という。

さらに世界生産の今後の見通しについて、豊田章男社長は「7月以降、年初の計画まで回復する見込み」と説明。2012年3月期の連結販売台数も「挽回してほぼ前期並みを計画している」とのべていたという。

急激な円高などで競争力を失いつつある国内生産について、新美篤志副社長は「日本は先端先進技術を生み出してきた拠点。新興国を含めた海外と、バランスある生産体制をとっていく」とのべ、一定の生産レベル維持の方針を強調した、という。

総会では、取締役数を27人から11人に大幅削減する人事案など6議案を原案どおり承認可決。2時間10分で終了した。

総会には、約3千人の株主が出席したという。東日本大震災や円高による国内生産、リコール問題などの質問がでました。

中心議題の剰余金処分について、議長の豊田章男社長が1株当たり年間50円、総額1568億円を配当したいと提案し、了承された。

利益の配分をめぐっては、「世界のトヨタといわれ、剰余金をたくわえているトヨタは、これを国民に還元して景気をよくする必要があるのではないか」との質問がでた。豊田社長は、「貴重なご意見として経営に折り込んでいく」としか答えなかったという。（「中日」、ブログ「トヨタで生きる」など）

「40年間働いてきた男性個人株主」の質問要旨

トヨタで40年間働いてきた男性個人株主Sさんは、「トヨタの海外生産シフトで雇用が守られるかどうか」と多数の社員が不安を持っている、として次のような質問を用意したそうです。しかし、多数が手をあげるなかで豊田社長から指名されませんでした。質問の要旨は次のとおりです。

「今、トヨタ自動車の将来に不安を持っている社員は、おそらく1人もいないと思います。しかしながら、そのトヨタに勤める自分がどうなるのか。不安をかかえる声を多く聞きます」

「そこで、社長の豊田章男さんに、この場で『(国内の雇用を守るといわれる)国内生産の300万台を維持し、雇用を守る』と明言していただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。その事が、社員はもちろん、下請け関連メーカーなどのモチベーションを上げ、長い目で見てトヨタのさらなる発展につながると私は思います」

Sさんは、日本のテレビ2社と外国通信社からインタビューを受けたそうです。そこで、トヨタは「国内生産300万台」の維持をし、雇用を守るべきだと力をこめて答えたということでした。（ブログ「トヨタで生きる」から）

「土日の操業と地域社会への影響」を質す

安城市に住む内野博子さん（40歳）は、トヨタの株主総会に、株主として出席。土日出勤のあり方について豊田章男社長に質問する予定でしたが、発言者多数のために、文書で豊田社長あてに提出したそうです。

その内容は―― 土日の操業と地域社会への影響について2点質問します。

今回、節電の関係で7月から9月の木金を休みにして土日を操業されるという事で、うちを含め小学生の親が大変困っています。

直接的な所だけでも3つあるので簡単に紹介します。

まずは学童保育所。うちは母子家庭で民間の学童保育所に子どもを預けていますが、

前回の父母会で日曜日を開けて欲しいと、多くの親から要望がありました。

しかし、指導員が確保できずに困っています。公立のクラブは安城市では1つだけ開けるようですが、応募が殺到して混乱しています。

2つ目に、子ども会と少年野球。子ども会のソフトボールやフットベースの試合は夏の日曜日に既に組まれています。監督やコーチが参加できない事態になっています。土日の練習も、夏休みは本金にするかもしれないようですが、7月前半と9月はコーチの確保がままなりません。自動車関連の方ばかりではないので、練習日程の調整に大変困っています。

3つ目に町内会行事です。打ち合わせや行事は土日が多いのですが、こちらもスタッフが足りるかが問題になっています。つまり、誰が困っているか、お分かりですか？

子どもたちや、地域を支えるボランティアの方々が困っているんです。

大企業の決定で弱者にしわ寄せが行くこの事について、どう思われますか？

そして、御社は連続2交代勤務をされているのですから、一直、二直の時間帯を、電力消費のピーク時間を避けるなど、地域社会や家族にできるだけ負担の少ない方法を選択できなかったのでしょうか？（ブログ「トヨタで生きる」より）

5. 「六重苦」、なかでも「円高対応」が焦眉——円高のため日本で商売をしていく限界をこえている（トヨタ小沢副社長）

トヨタを頂点とする自動車産業など、輸出企業は、急激な「円高」で四苦八苦の状況にあるといえます。

日本経団連の米倉会長は、ある講演で、「日本経済の現状・日本企業を取り巻く環境」は、「六重苦」が「成長の足かせ」となっている、と明言しました。

「六重苦」とは、「**円高の継続**」、「**国際的に高い法人税負担**」、「**現実味に乏しい温暖化対策**」、「**柔軟性に欠ける労働法制**」、「**経済連携推進の遅れ**」などの「構造的な問題」の影響にくわえ、東日本大震災・福島第一原発の重大事故による「**夏場の電力供給制限**」が惹起し、いま輸出大企業にとって「六重苦」だということです。

5月26日ひらかれた「日本経団連2011年度総会」は、「困難を乗り越え、「新たな日本」を創造する（総会決議）」をうたいあげてました。そのなかは、「震災からの早期復興」、「新しい日本の創造に向けた成長戦略の着実な実施と雇用の創出」、「社会保障と税・財政の一体改革」、「エネルギー・環境政策の再構築」、「EPA/FTAを通じた経済統合の推進（TPP交渉への早期参加）」をうたいあげていました。

総会の役員人事では、トヨタは、副会長にひきつづき渡辺捷昭相談役（前副会長・元社長）を送り込んでいます。

震災後、さらに「円高」が急伸しているなかで、トヨタを先頭とする自動車メーカーは、「円高対応」を政府に求めています。

輸出企業にとって、「円高/ドル安の進行が業績回復のハードルになっている。自動車、電機メーカーの多くは今期のドル/円=を80円台前半から半ばで想定していた。さいきんは1ドル80円を突破。78円台に突入している。これは「自動車メーカーの生産回復に冷水」を浴びせるようなものといわれている。

震災以降、自動車各社の国内生産は低水準にとどまり、輸出も減少していたため、円高のデメリットは表面化してこなかった。だが、被害を受けた部品調達もサプライチェーンの回復が比較的すすみ、各社は生産正常化の時期の前倒しに踏み切っている。トヨタも11月予想を10月に前倒しすることを発表した。

しかし、円高の影響は、とりわけトヨタがおかれている状況は厳しい。日本から米国へ輸出している割合が高く、対ドルでの円高の影響度合いが大きい。対ドルで1円円高になると営業利益が300億円目減りする。11年3月期も円高が2900億円のマイナス要因となった。

トヨタほどではないとはいえ、日産自、ホンダも円高が収益の圧迫要因となっている。トヨタが6月10日に発表した2012年3月期の想定レートは1ドル=82円・前年より4円円高。会見で同社の小澤哲副社長は、円高のため日本で商売をしていく限界をこえている、との認識を示し「一日でも早い為替の是正を政府に求めたい」と語った。

政府に抜本策を求める声はトヨタに限らない。日本自動車工業会の志賀俊之会長(日産自動車最高執行責任者)と全日本自動車産業労働組合総連合会の西原浩一郎会長は8日、円が一時1ドル=80円を割る円高水準になったことを受け、緊急声明を発表。これまで国際競争力を維持するため、絶え間ないコスト削減などの取り組みを継続しておこなってきたものの、「現在の為替水準はそうした企業労使の努力の限界を超えている」とし、政府に円高是正に向けた対応を強く求めていました。

あと残る道は、生産拠点の「海外逃亡」——国内生産の縮小・老朽化した国内生産設備の廃棄、雇用の縮小へとすすむにちがいない。

6、トヨタ、とりあえず「関連会社再編成」を発表 老朽化ラインは止める

トヨタは、2008年秋のいわゆる「トヨタ・ショック」、その後の「赤字決算」、経営再建、見事な黒字回復をへて、昨年5月11日、「持続的な成長戦略をすすめる中、グローバルで最適な供給体制を構築」をめざす『生産体制の再構築』を公表した。

また本年3月9日には、新『グローバルビジョン』を発表した。(『所報』154号・2010年11月号、「同」156号・2011年3月号参照)

この『生産体制の再構築』、『グローバルビジョン』にそった「国内生産体制再編」プラン・第1弾『トヨタグループ、「日本のモノづくり」強化に向けた新体制』が、7月13日月発表された。

具体的には、トヨタ車体と関東自動車を2012年1月に完全子会社化する。同時に、関東自動車とトヨタ東北、セントラル自動車の3社を、2012年7月をめどに経営統合する、というものです。

トヨタ車体は、ハイブリッド車のプリウスやハイエースなどのミニバンを生産。関東自動車はオーリスなどを、セントラル自動車はカラーラアクシオなどを、トヨタ東北はサスペンションなどを生産してきた。

こんごは、「トヨタが関連会社に車両の委託生産していたのをやめて、各会社が開発から生産までを一貫して行おう」というものです。

こうすることによって、第2の生産拠点・九州北部につづく、名実ともに「第3の生産拠点」となることをめざしているようです。

がトヨタには組立工場が、元町、高岡、堤、田原の4工場がある。関連会社には組立工場が14工場もあり、あわせて18工場でトヨタ車を生産をしてきた。

豊田市を中心とした中部地方で215万台、九州地方で40万台、東北地方で45万台の3極体制を築くとしています。

今回の関連会社再編成のねらいについて、豊田社長が「国際競争力を高める」とのべたように、3月9日に発表した「グローバルビジョン」にもとづくものです。同ビジョンでは、世界750万台販売で、1兆円程度の営業利益を「早期に実現」することをめざしていました。そのために国際競争力を高め、海外生産・販売をいっそう強化することをうたっています。

また、豊田社長は、国内での雇用維持のラインといわれる「300万台体制」について、「300万台というのはぎりぎりの線。歯を食いしばって頑張っている」とのべていました。2011年度の生産見通しは、国内は303万台で、300万台ぎりぎりです。

一方で、新美篤志副社長は、「ラインの統合作業を粛々とすすめる」、「ラインを低負荷で動かすのは非効率。老朽化したラインはいずれ止めることになる」とのべています。日時は明らかにしませんが、組立ラインの統廃合をさらにすすめるというものです。すでに高岡工場では、2つのラインのうちの1つを止めています。また、田原工場も3つのラインのうち1本も止めています。“余剰”とされた労働者は、他の工場へ配転や応援などに出されており、あるいは工場の清掃などをさせられているようです。

東北に、エンジン工場を建設——文字どおり「第三の生産拠点」へ

トヨタ自動車は宮城県大和町に計画しているエンジン工場について、建設事業を進める意向を固めたもようです。「計画」は2008年秋のリーマン・ショック後の自動車不況をうけて、延期されていました。トヨタは「国内第3の生産拠点」と位置付ける東北で生産体制の強化をはか図るとともに、「東北の復興にもつなげたい」考えのようです。

トヨタは7月19日、豊田章男社長が仙台市内で記者会見し、東北の復興支援に向けた取り組みとして、エンジン工場を含めた東北への設備投資について言及することになっている。(7月16日現在)

『河北新報』の報道などによると、「トヨタは宮城県大和町に計画しているエンジン工場について、建設事業をすすめる意向を固めたもようだ。計画は2008年秋のリーマン・ショック後の自動車不況を受けて、延期されていた。トヨタは「国内第3の生産拠点」と位置付ける東北で生産体制の強化を図るとともに、東北の復興にもつなげたい考えとみられる。

トヨタは13日、国内生産体制の強化を目的に、岩手県金ケ崎町に岩手工場を持つ関東自動車工業（神奈川県横須賀市）、セントラル自動車（宮城県大衡村）、部品製造のトヨタ自動車東北（同県大和町）の系列3社の経営統合方針を発表し、来年7月の新会社設立を目指している。

新会社が手掛ける小型車は国際的なコスト競争が激しい。エンジンは自動車部品の中でもかさばり、運送費がかかるため、コスト競争力をアップさせるためにも東北でのエンジン製造が不可欠と判断したとみられる。

エンジン工場についてトヨタは「開発中の新型エンジンが完成した時が投資のタイミング」（新美篤志副社長）として、２０１０年代後半にも稼働させる方向で検討していた。」

国内生産１００万台の過剰をどう淘汰するのか

トヨタの国内生産の実績（下表）をみてあきらかなように、最高は、２００７年４２６万台超を生産していた。

トヨタの生産・販売・輸出・海外生産実績

	国内生産	国内販売	輸 出	海外生産	グローバル生産
２００１年度 実績	3,364,009 (98.3)	1,678,414 (94.6)	1,708,256 100.2)	1,833,003 (104.6)	5,197,012 (100.4)
２００２年度 実績	3,513,887 (104.5)	1,710,331 (101.9)	1,835,722 (107.5)	2,215,469 (120.8)	5,729,356 (110.2)
２００３年度 実績	3,558,239 (101.3)	1,729,296 (101.1)	1,860,061 (101.3)	2,739,420 (123.6)	6,297,659 (109.9)
２００４年度 実績	3,749,138 (105.4)	1,755,520 (101.5)	1,982,138 (106.6)	3,127,241 (114.1)	6,876,379 (109.2)
２００５年度 実績	3,863,086 (103.0)	1,734,877 (98.8)	2,125,881 (107.3)	3,731,253 (119.3)	7,594,339 (110.4)
２００６年度 実績	4,185,464 (108.3)	1,642,561 (94.6)	2,597,607 (122.2)	3,939,139 (105.6)	8,124,603 (107.0)
２００７年度 実績	4,264,641 (101.9)	1,563,920 (95.2)	2,708,153 (104.3)	4,424,627 (112.3)	8,689,268 (106.9)
２００８年度 実績	3,393,257 (79.6)	1,331,474 (85.1)	2,139,512 (79.0)	3,710,767 (83.9)	7,104,024 (81.8)
２００９年度 実績	3,206,679 (94.5)	1,535,112 (115.3)	1,644,085 (76.8)	4,071,980 (109.7)	7,278,659 (102.5)
２０１０年度 実績	3,003,845 (93.7)	1,407,141 (91.7)	1,698,283 (103.3)	4,338,410 (106.5)	7,342,255 (100.9)

こんどの「３００万台体制」維持の方針では、「１００万台」余の生産能力の過剰をどうするかがあきらかにしていません。当然、トヨタ本体や、関連会社の老朽施設の淘汰・リストラが必至とみられます。設備の過剰は、人員の過剰でもあり、トヨタのリストラの動きは目が離せません。

(いとう・きんじ／当所所員)

資料・内閣が発表する『月例経済報告』

○2011年 1月

景気は、足踏み状態にあるが、一部に持ち直しに向けた動きがみられる。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

先行きについては、当面は弱さが残るとみられるものの、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。一方、海外景気の下振れ懸念や為替レートの変動などにより、景気がさらに下押しされるリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

○2011年 2月

景気は、持ち直しに向けた動きがみられ、足踏み状態を脱しつつある。ただし、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

先行きについては、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。一方、海外景気や為替レート、原油価格の動向等によっては、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

○2011年 3月

景気は、持ち直しに転じているが、自律性は弱く、東北地方太平洋沖地震の影響が懸念される。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

先行きについては、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気の持ち直し傾向が続くことが期待されるが、東北地方太平洋沖地震の影響に十分留意する必要がある。また、金融資本市場の変動や原油価格上昇の影響、海外景気の動向等によっては、景気が下振れするリスクが存在する。デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

○2011年 4月

景気は、持ち直していたが、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

先行きについては、当面は東日本大震災の影響から弱い動きが続くと見込まれる。その後、生産活動が回復していくのに伴い、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待されるが、電力供給の制約やサプライチェーン立て直しの遅れ、原油価格上昇の影響等により、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

○2011年 5月

景気は、東日本大震災の影響により、このところ弱い動きとなっている。また、失業率が高水準にあるなど依然として厳しい状況にある。

先行きについては、当面は東日本大震災の影響から弱い動きが続くと見込まれる。その後、生産活動が回復していくのに伴い、海外経済の改善や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待されるが、電力供給の制約やサプライチェーン立て直しの遅れ、原子力災害及び原油価格上昇の影響等により、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

2011年 6月

景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ上向きの動きがみられる。

先行きについては、サプライチェーンの立て直しが進み、生産活動が回復していくのに伴い、海外経済の緩やかな回復や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、電力供給の制約や原子力災害及び原油高の影響に加え、海外経済の回復がさらに緩やかになること等により、景気が下振れするリスクが存在する。また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

2011年 7月

景気は、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあるなかで、このところ上向きの動きがみられる。

先行きについては、サプライチェーンの立て直しが進み、生産活動が回復していくのに伴い、海外経済の緩やかな回復や各種の政策効果などを背景に、景気が持ち直していくことが期待される。ただし、電力供給の制約や原子力災害及び原油高の影響に加え、海外経済の回復がさらに緩やかになること等により、景気が下振れするリスクが存在する。

また、デフレの影響や、雇用情勢の悪化懸念が依然残っていることにも注意が必要である。

『月例経済報告』とは、景気に関する政府の公式見解を示す報告書。内閣府が景気動向指数に基づいて月次で取りまとめ、経済財政政策担当大臣が関係閣僚会議に提出し、了承を経て公表される。

冒頭の基調判断の部分で経済全般を総括的に評価し、個人消費・設備投資・住宅建設・公共投資・輸出・輸入・貿易・サービス収支・企業収益・雇用などの個別要素の動向についても言及する。基調判断部分では「弱含んでいる」「改善に足踏みがみられる」「持ち直しの動きがみられる」など独特の表現が用いられ、前月からの変化に注目が集まる。内閣府のHPで見ることができる。

： お 知 ら せ ：

当研究所の2年に1回の総会・「13期総会」の時期がやってきました。

下記のように、予定しますので、会員（会員団体）の皆様方のご出席をおねがいします。

第13期総会

と き 2011年 10月 15日（土） 午後1時から

ところ 労働会館本館 2階 第4・5会議室

議 事

（1）第12期（2009年10月～2011年9月）の活動報告・会計報告と
第13期の事業計画（案）および13期第1年時予算（案）の提案と
討議、決定

（2）第13期役員の選出

（3）その他

*議案は、『所報』9月号発送に同封します。

記 念 講 演

（総会につづいて）

と き 2011年 10月 15日（土） 午後3時30分から

ところ 労働会館本館 2階 第4・5会議室

講 演

テーマー および 講師 は 検討中。『所報』次号・9月号で
お知らせします。

懇 親 会

（総会・記念講演終了後）

と き 2011年 10月 15日（土） 午後5時30分から

ところ 労働会館本館 2階 第4・5会議室

*参加自由・「参加費」2千円（予定）を徴収しますのでよろしく。

研 究 所 便 り

☆2011年7月15日以降の活動予定

7月23日ひまわり集会（静岡）

会 第21回所員会議

7月30日自治労連大会

10月15日第13期愛知労働問題研究所総

31日愛労連第44回定期大会

会予定

8月27日第8回愛知労働問題研究所理事

☆研究所寄贈・購入文献紹介

「原発大崩壊」武田邦彦（ベスト新書）「原発のウソ」小出裕彰（扶桑社新書）

「原発労働記」堀江邦夫（講談社文庫）「先送りできない日本」池上彰（角川）

「経済成長は不可能なのか」盛山和夫（中公新書）

「日本経済が何をやってもだめな本当の理由」樋浩一（日本経済新聞社）

★ホームページが変わりました。Web会員を募る予定です。主な論文を随時載せていきたいと思ひます。ご意見をいただきたいと思ひます。

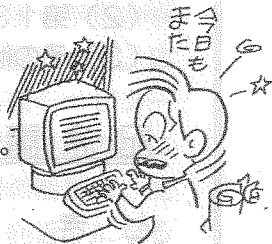
☆今回159号を発行しました。

震災ボランティア記事を中心にしました。執筆いただきましたみなさまのご協力に感謝いたします。

あわせて会員の皆様からの積極的な投稿をお待ちしております。

★第13期総会を10月15日開催します。お知らせをP23に載せてあります。

☆第12期新年度会費の納入について、お願いいたします。



* 「所報」第159号（隔月刊） / 発行日2011年7月20日

* 発行所・編集発行人 愛知労働問題研究所（略称：労問研）

* 〒456-0006 名古屋市熱田区沢下町9-3 労働会館304号

* TEL/FAX(052) 883-6978 Eメールai-romonken@roren.net

* ホームページ <http://www.roren.net/romonken/>

* 研究所会費（年）個人6000円 団体1口・12000円 * 会員の購読料は会費に含む。収入のない大学生・院生割引あり相談下さい。送金先：郵便振替00860-6-80604 愛知労働問題研究所／三菱東京UFJ銀行・金山支店・普通口座1368019

* お願い：12期 2010年度・会費納入にご協力下さい。

